名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名（英）	心理学演習（ Psychology Practice ）	必修選択	必修	年次	2	担当教員	山田 野乃花
学科	歯科衛生科	授業形態	演習	総時間（単位）	30	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部				2	曜日・時限	火曜日　1・2限目

【授業の学習内容】

医療現場で働くに当たって、患者さんやスタッフ間でのコミュニケーションは必要不可欠です。 この授業では、そうしたコミュニケーションのあり方を学ぶ時間にしていきたいと考えています。簡単な心理テスト等を通して自己理解を深め、自分にはどのようなコミュニケーションの取り方があっているのかということを考えたり、グループワークを通して他者理解を深め、どのような人にはどのような声かけをするとうまくいくのか、安心してもらえるのかということを自分なりに見つけて行けると良いと良いと考えています。

※実務者経験：2017年4月から2018年3月まで同朋大学大学院人間福祉研究科付属心理臨床センターに勤務
2018年4月から2018年7月現在まで愛知県の中学校に勤務・金山メンタルクリニックに勤務
主業務：事務職員兼相談員・スクールカウンセリング・医療事務兼心理業務への関与

【到達目標】

自己を理解することで、他者への理解を一層深め、患者さんやスタッフ間のコミュニケーションに応用していける力を身につけることを目標に学習していきます。また、授業内での関わりを通して、どのような声かけが相手の安心に繋がるのか、どのような表情、行動が相手に与える印象をどう変化させるのかということも考えられるようになれると良いと思います。

授業計画・内容	
1回目	自己理解（グループワーク）
2回目	自己理解（グループワーク）
3回目	自己理解（視聴覚資料鑑賞）
4回目	自己理解（レポート）
5回目	他者理解（グループワーク）
6回目	他者理解（グループワーク）
7回目	他者理解（視聴覚資料鑑賞）
8回目	他者理解（レポート）
9回目	職場の心理学（グループワーク）
10回目	職場の心理学（視聴覚資料鑑賞・レポート）
11回目	患者さんとのコミュニケーション（グループワーク）
12回目	患者さんとのコミュニケーション（視聴覚資料鑑賞・レポート）
13回目	スタッフ間でのコミュニケーション（グループワーク）
14回目	スタッフ間でのコミュニケーション（視聴覚資料鑑賞・レポート）
15回目	レポート
準備学習時間外学習	各授業後にレポートを作成し、次回の授業で提出。
評価方法	レポート（50%） 小レポート（25%） 演習への参加態度(25%) 評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格
受講生へのメッセージ	グループワークはあまり得意ではないという人、そんなに抵抗がないという人、様々だと思います。抵抗のない人は、どのように声をかけたら得意でない人が安心して参加できるかという配慮する気持ちを持って参加してもらえると良いと思います。得意でないという人も、どういう声かけをしてもらえると安心できるな等々を学ぶ機会できると良いと思います。そうした授業の中でのちょっとした関わりも、実際の臨床現場で活かせる技術の1つとして身につけられる時間になればと考えています。

【使用教科書・教材・参考書】

必要に応じて資料を配布します。

名古屋医健スポーツ専門学校　2023度 シラバス

科目名 （英）	栄養学 （Nutritional Science）	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	平野　義晃
学科	歯科衛生学科	授業 形態	講義	総時間 （単位）	15	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部				1	曜日・時限	金曜・3限　242教室

【授業の学習内容】
食事指導による歯科疾患の予防・治療のアプローチのためには、栄養に関する知識が必要不可欠です。
栄養学では、栄養素の消化・吸収や役割、食事摂取基準の概要、各栄養素の生体内での働き、
国民の健康・栄養の実態、望ましい食生活指導の実際について理解し、各々の説明ができるようになる。
※実務者経験：なし

【到達目標】
歯科保健指導に必要な栄養の基礎知識を修得する。
＜具体的な目標＞
1.栄養学の意義、栄養素の消化・吸収、代謝について説明できる。
2.各栄養素の体内における機能が説明できる。
3.食べ物と健康、食生活と健康の関係を理解し、望ましい食生活について説明できる。

授業計画・内容	
1回目	栄養の基礎知識、栄養素の消化・吸収について説明できる
2回目	食事摂取基準、基礎代謝について説明できる
3回目	糖質の種類と栄養的意味が説明できる
4回目	タンパク質の種類と栄養的意味が説明できる
5回目	脂質の種類と栄養的意味が説明できる
6回目	ビタミン・ミネラルの種類と栄養的意味、水・食物繊維の栄養的意味が説明できる
7回目	食生活と健康、食べ物と健康の関係を理解し、食事バランスガイドが概説できる
8回目	試験、講評
準備学習 時間外学習	生化学による生命現象の理解は栄養学を学ぶ上で不可欠です。生化学を修得しておくこと。 講義はテキストに沿って行います。各時、単元の予習をして授業に臨んでください。 単元終了時には小テストやレポート課題で修得度の確認を行いますので、講義の復習が必要です。
評価方法	1. 定期試験（90%） 2. 小テスト・レポート（10%） 評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格 単元ごとに基礎知識の修得度を小テストやレポートで確認する。 定期試験により、授業の具体的な目標への到達度を評価する。
受講生への メッセージ	高齢化社会において、栄養学や食事の摂り方を含めた食生活指導は、歯科衛生士の重要な仕事となっています。 将来の歯科保健指導実践のために、全身の健康を保つための栄養学をしっかり理解しましょう。

【使用教科書・教材・参考書】
教科書：全国歯科衛生士教育協議会監修：最新歯科衛生士教本　人体の構造と機能2　栄養と代謝. 医歯薬出版
参考書：城田知子、田村明、平戸八千代著：イラスト栄養学総論 第7版. 東京教学社

名古屋医健スポーツ専門学校　2023度 シラバス

科目名 （英）	栄養学 （Nutritional Science）	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	平野　義晃
学科	歯科衛生学科	授業 形態	講義	総時間 （単位）	15	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部				1	曜日・時限	金曜・3限　242教室

【授業の学習内容】
食事指導による歯科疾患の予防・治療のアプローチのためには、栄養に関する知識が必要不可欠です。
栄養学では、栄養素の消化・吸収や役割、食事摂取基準の概要、各栄養素の生体内での働き、
国民の健康・栄養の実態、望ましい食生活指導の実際について理解し、各々の説明ができるようになる。
※実務者経験：なし

【到達目標】
歯科保健指導に必要な栄養の基礎知識を修得する。
＜具体的な目標＞
1.栄養学の意義、栄養素の消化・吸収、代謝について説明できる。
2.各栄養素の体内における機能が説明できる。
3.食べ物と健康、食生活と健康の関係を理解し、望ましい食生活について説明できる。

授業計画・内容	
1回目	栄養の基礎知識、栄養素の消化・吸収について説明できる
2回目	食事摂取基準、基礎代謝について説明できる
3回目	糖質の種類と栄養的意味が説明できる
4回目	タンパク質の種類と栄養的意味が説明できる
5回目	脂質の種類と栄養的意味が説明できる
6回目	ビタミン・ミネラルの種類と栄養的意味、水・食物繊維の栄養的意味が説明できる
7回目	食生活と健康、食べ物と健康の関係を理解し、食事バランスガイドが概説できる
8回目	試験、講評
準備学習 時間外学習	生化学による生命現象の理解は栄養学を学ぶ上で不可欠です。生化学を修得しておくこと。 講義はテキストに沿って行います。各時、単元の予習をして授業に臨んでください。 単元終了時には小テストやレポート課題で修得度の確認を行いますので、講義の復習が必要です。
評価方法	1. 定期試験（90%） 2. 小テスト・レポート（10%） 評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格 単元ごとに基礎知識の修得度を小テストやレポートで確認する。 定期試験により、授業の具体的な目標への到達度を評価する。
受講生への メッセージ	高齢化社会において、栄養学や食事の摂り方を含めた食生活指導は、歯科衛生士の重要な仕事となっています。 将来の歯科保健指導実践のために、全身の健康を保つための栄養学をしっかり理解しましょう。

【使用教科書・教材・参考書】
教科書：全国歯科衛生士教育協議会監修：最新歯科衛生士教本　人体の構造と機能2　栄養と代謝. 医歯薬出版
参考書：城田知子、田村明、平戸八千代著：イラスト栄養学総論 第7版. 東京教学社

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名 (英)	公衆衛生学 (Community Hygiene)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	新井康司
学科	歯科衛生学科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	火3・4時限・水曜日４時限

【授業の学習内容】
公衆衛生学では、人類が生きるのに最低限必要な資源と社会制度について学びます。
超高齢社会に突入した日本における医療サービスの提供は、疾病の克服だけでは目的を達さなくなっている。
多職種連携が前提である現在の医療サービスにおいて必要不可欠な学問と言えます。
実務経験：1997年～2001年愛知学院大学歯学部口腔衛生学講座に所属。2001年～2005年国立長寿医療医療センター病院・研究所に所属、将来における長寿医療のあり方を模索、疫学について研究を行いました。

歯科衛生士は国が定めた国民の命を守る重要な職業の一つです。社会に出る前に国が歯科衛生士に与えた職務を説明でき、社会における自分の立ち位置を説明できるようになってください。

授業計画・内容	
1回目	健康の定義　疫学　ヘルスプロモーション　について説明できる
2回目	医の倫理　患者の権利　インフォームド・コンセント　について説明できる
3回目	我が国の人口の推移について説明できる
4回目	我が国の医療従事者数および医療機関数の推移について説明できる
5回目	環境衛生　空気と水の安全について説明できる
6回目	環境衛生　地球温暖化と対策について説明できる
7回目	環境衛生　屋内環境について説明できる
8回目	環境衛生　廃棄物処理と地球資源保全について説明できる
9回目	食品衛生　飲食物の安全・食中毒について説明できる
10回目	健康づくり運動　健康日本２１（第２次）について説明できる
11回目	公害　４大公害の発生場所、原因について説明できる
12回目	労働法と職業病について説明できる
13回目	災害保健　国際保健について説明できる
14回目	テーマ学習　近年起きた公衆衛生上の出来事について相互に議論する
15回目	試験

準備学習 時間外学習	専門分野である歯科のみならず、保健一般の知識の充実が求められます。 「なごや環境大学」の共育講座や公官庁の衛生施設見学へ自ら参加する等、視野を広げる工夫をしてください。 また、関係した出来事の新聞記事を在学中スクラップするとよい復習になります。 提出物件が返却されたら必ずファイルして保管し、復習に役立ててください。		
評価方法	定期試験（90%） 提出物等(10%)	評価方法はＧＰＡ制度となります １００～９０点　Ｓ ８９～８０点　Ａ ７９～７０点　Ｂ ６９～６０点　Ｃ ５９点以下　Ｆ不合格	
受講生への メッセージ	関わる範囲が非常に広い学問です。身近な出来事がよい教材になることが多いので、 講義室以外でも勉強ができる学問と言えます。常に好奇心をもって学んでください。		

【使用教科書・教材・参考書】　公衆衛生がみえる　第3版　２０１８／２０１９　メディックメディア

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名 (英)	衛生行政・社会福祉学 (Public Health Administration Social Welfare)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	新井康司
学科	歯科衛生学科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分	前期
コース	昼間Ｉ部					曜日・時限	水・木曜日４限

【授業の学習内容】

我が国の国民の命を支える法律と社会保障制度（含；福祉制度）について説明できるようになりましょう。

※実務者経験：1997年～2001年愛知学院大学歯学部口腔衛生学講座に所属。2001年～2005年国立長寿医療医療センター病院・研究所に所属、将来における長寿医療のあり方を模索、疫学について研究を行いました。

【到達目標】

歯科医療に関わる各職業と施設の法律的位置づけ、職務規程について説明できるようになる。
国民の生活を守る保健規定、社会保障制度、社会福祉制度を正しく説明できるようになる。

授業計画・内容	
1回目	医療行政序章　歯科医師法　歯科技工士法　業務と義務について説明できる
2回目	歯科衛生士法と保健師助産師看護師法　業務と義務について説明できる
3回目	母子保健　母子健康手帳の機能　１歳6ヶ月児検診　3歳児検診について説明できる
4回目	学校保健　就学時健康診断　学校保健統計に見る近頃の傾向　生きる力　児童虐待防止について説明できる
5回目	地域保健　感染症の制御について説明できる
6回目	健康増進法　健康増進事業　受動喫煙対策　健康日本２１（第２次）　特別用途食品の表示について説明できる
7回目	医療法　診療所の開設・廃止　標榜制度　安全管理　保健所による医療監視について説明できる
8回目	医薬品医療機器等法　医薬品と医薬部外品の定義　毒薬と劇薬の表示　について説明できる
9回目	倫理　時事問題　について説明できる
10回目	社会保障序章　医療保険制度について説明できる
11回目	高齢者保健　年金と介護保険制度について説明できる
12回目	産業保健　雇用保健制度　労働者災害補償保険制度について説明できる
13回目	生活保護制度　給付の原則　現物・現金給付　制度上の問題点について説明できる
14回目	障害者福祉制度について説明できる
15回目	試験
準備学習 時間外学習	関係した出来事の新聞記事を在学中スクラップするとよい復習になります。 授業中にも新聞記事を副教材として配布します。講義との関連に注意してください。 提出物件が返却されたら必ずファイルして保管し復習に活用してください。
評価方法	定期試験（90%） 提出物件等(10%) 評価方法はＧＰＡ制度となります １００～９０点　Ｓ ８９～８０点　Ａ ７９～７０点　Ｂ ６９～６０点　Ｃ ５９点以下　Ｆ不合格
受講生への メッセージ	取り扱う法律の数が多いためか国家試験の出題数が多いので、要点をまとめて知識を整理する工夫が求められます。

【使用教科書・教材・参考書】

公衆衛生がみえる　第3版　２０１８／２０１９　メディックメディア

歯科衛生士のための衛生行政社会福祉社会保険　第9版　医歯薬出版

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名（英）	保健情報統計学 (Health Informatics and Statistics)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	新井　歌織
学科	歯科衛生士科	授業形態	講義	総時間（単位）	15	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部				1	曜日・時限	木曜2限、火曜2限

【授業の学習内容】

疫学とは何かを歴史から知り、疫学研究の方法からそしてデータを自分でどう活かして表現作成、魅せる表グラフの作成、数字から分析し何を表現したいかを説明できるようする知識を習得する。
※実務者経験：歯学部口腔衛生学講座に所属し、その後歯科診療所、介護訪問、歯科健診等の現場で実務経験を有する歯科医師の教員が、その経験を活かして歯科に必要な統計について指導する。

【到達目標】

・集団の特性を知るための統計を理解し、説明できる
・歯科に関する評価の表現方法について説明できる　・グラフを読み、作成し、その特徴を説明できる

授業計画・内容	
1回目	疫学とは。疫学の方法論について説明ができる
2回目	歯科の指数（う蝕）について説明ができる
3回目	歯科の指数（口腔清掃）について説明ができる
4回目	歯科の指数（歯周疾患）について説明ができる
5回目	歯科の指数（その他）について説明ができる
6回目	グラフを読んで、作成ができる
7回目	データの解析が説明できる
8回目	総復習　試験
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習時間外学習	授業内で配布する印刷物は、単元ごとにまとめ、講義の復習に使用してください。
評価方法	1. 定期試験（90%） 2. 小テスト（10%） 評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格
受講生へのメッセージ	新しく学ぶことの多い分野です。様々な視野からの見方ができるようになり世界が広がるでしょう。興味をもって授業に望んでください。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：歯科衛生士教本　保健情報統計学　医歯薬出版

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名（英）	歯科医療倫理	必修選択	必須	年次	2年	担当教員	宇佐美雄司
学科	歯科衛生科	授業形態	講義・実習	総時間（単位）	1	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	月曜日、1限

【授業の学習内容】

医療従事者として歯科衛生士も医療倫理に則っとり、診療に従事することが求められいます。歯科医学の進歩と口腔に関わる健康保持、増進との調和をはかる上で、生命倫理を理解し、医療倫理を会得していることが望まれます。そして、将来的にも、高い倫理観を保っていく姿勢の醸成を目指します。さらに、医療倫理と関連の深い、医療安全に関しての知識も教授していきます。

＊1982年から大学病院にて口腔外科診療に携わり、さらに1987年からは教官（医学部助手、講師）として医学部学生の指導等にあたってきた。そして、2001年からは卒後臨床研修歯科医師の指導や複数の歯科衛生士学校で講師を務めてきた。

【到達目標】

・医療倫理の必要性を理解し、歯科衛生士としての倫理上の使命を考察する。
・医療従事者として、将来に渡って医療倫理を高めていく姿勢を見につける。
・倫理に基づくインフォームド・コンセントが得られるようにする。
・医療倫理と齟齬が生じないように、適切な医療安全が構築できるように、歯科診療における歯科衛生士の役割を理解する。

授業計画・内容	
1回目	生命倫理と医療倫理の概念
2回目	医療倫理に基づくインフォームド・コンセント
3回目	医学研究と医療倫理
4回目	歯科医療における倫理を踏まえた行動について
5回目	医療安全の概要と法的背景
6回目	インシデント、アクシデントの理解
7回目	歯科診療における医療安全の構築　まとめ
8回目	試験と解説
準備学習 時間外学習	
評価方法	1.定期試験(70%) 2.レポート（20%） 3。出席、授業態度（10%） 評価基準 90点以上　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 60点未満　F不合格
受講生への メッセージ	講義形式が主体となりますが、可及的に事例を提示しみなさんに考えていただきながら理解していただきたいと思います。

【使用教科書・教材・参考書】

歯科医療倫理（医歯薬出版）および各回で資料配布予定です。

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名（英）	口腔外科学（Oral and Maxillofacial Surgery）	必修選択	必須	年次	2	担当教員	土持 師
学科	歯科衛生科	授業形態	講義	総時間（単位）	30	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部				2	曜日・時限	水曜・3時限目

【授業の学習内容】

口腔外科とは、口腔および顎顔面部の自覚的・他覚的症状に対して診断を行い、その診断に対して外科的療法を行なう歯科の一分野です。授業を通して口腔および顎顔面部の疾患・治療方法を理解し、歯科衛生士としての対応や手術手技の介助に関して学習します。また、全身疾患と歯科治療の関わり、救急蘇生などに関しても学習します。

【到達目標】

歯科衛生業務を行なうために必要な口腔・顎顔面領域疾患の特徴と病態・診断方法および治療法を理解・習得します。また、歯科・口腔外科診療に必要とされる麻酔方法および歯科治療中に遭遇する合併症・偶発症の対応・蘇生方法についても理解できるようにします。　　＜具体的な目標＞

目標①:顎・口腔の解剖・生理・加齢変化を理解し、顎・口腔の役割を説明できる。
目標②:顎・口腔領域疾患の特徴・診断方法・治療方法を説明できる。
目標③:口腔外科診療における歯科衛生士の役割を説明できる。
目標④:歯科治療で問題になる基礎疾患・歯科治療時の注意点を説明できる。

授業計画・内容		
1回目	口腔外科の概要について説明できる	口腔外科の診療範囲・扱う疾患
2回目	先天異常と発育異常について説明できる	歯の歯数・形態異常・口唇口蓋裂
3回目	顎顔面の損傷について説明できる	歯の損傷・顎骨骨折
4回目	口腔粘膜疾患について説明できる	ウィルス性疾患・前癌病変
5回目	炎症について説明できる	炎症とは？・炎症の進展経
6回目	のう胞について説明できる	のう胞とは？
7回目	良性腫瘍について説明できる	良性腫瘍の特徴
8回目	悪性腫瘍について説明できる	悪性腫瘍の特徴
9回目	顎関節疾患について説明できる	顎関節の構造・機能
10回目	唾液腺疾患について説明できる	唾液腺の解剖・疾患
11回目	神経疾患について説明できる	三叉神経・神経痛・神経麻痺
12回目	血液疾患について説明できる	貧血・白血病・血友病・血小板減少性紫斑病
13回目	手術の実際とその介助について説明できる	
14回目	全身麻酔・局所麻酔・救急処置について説明できる	
15回目	試験　および　試験解説	
準備学習時間外学習	毎回の講義で渡す資料を復習するようお願いします。	
評価方法	・定期試験 ・出席	評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格
受講生へのメッセージ	口腔外科は暗記項目が多いような印象を持たれるかもしれませんが、身体の仕組み・病態の基礎的知識の理解が必要です。基礎的な事を理解すれば疾患の理解・治療法等々は比較的理解しやすいと思います。楽しく興味がもてる講義を行なうようにしますので、講義中にできる限り理解するようお願いします。夏まで一緒に頑張りましょう！！	

【使用教科書・教材・参考書】

教科書:古森孝英編著　歯科衛生士講座　口腔外科学　永末書店

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名（英）	小児歯科学 (Pediatric Dentistry)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	渥美 信子
学科	歯科衛生士科	授業形態	講義	総時間（単位）	30	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部				2	曜日・時限	木曜 1限

【授業の学習内容】

小児を対象とする歯学の1分野である小児歯科学の目的は、胎生期から成長発育して成人にいたる間の口腔領域の正常な発育を図り、健全な顎口腔機能を育成するための理論や方法を修得することにある。

そこで、小児の口腔領域の正常な発育、発育を障害する異常や口腔疾患、その予防法や治療法、小児の対応法について理解し、本授業終了時には説明できるようにする。

実務者経験：1987年から大学附属病院に所属し、小児歯科専門医とし小児歯科診療に従事している。

【到達目標】

小児の口腔領域の正常な発育について理解し、その健全な発育を障害する異常や口腔疾患について、その予防法と治療法を説明できる。

〈具合的な目標〉

目標①小児の心身の発育および顎口腔領域の発育を説明できる。

目標②乳歯および幼若永久歯の特徴、う蝕の特徴と予防法、小児にみられる口腔軟組織の異常や疾患を説明できる。

目標③小児患者の対応法を説明できる。

目標④乳歯および幼若永久歯の歯冠修復処置、歯内療法処置、外科的処置、咬合誘導処置を説明できる。

授業計画・内容	
1回目	概論、心身の発育：小児の言語、情動、運動機能、摂食・嚥下機能の発達を説明できる。（教科書P.1-19）
2回目	小児の生理的特徴、顔面頭蓋の発育：脳頭蓋・顔面頭蓋の発育の特徴を説明できる。（教科書P.20-30）
3回目	歯の発育とその異常①：乳歯および幼若永久歯の特徴を説明できる。（教科書P.31-36）
4回目	歯の発育とその異常②：歯の形成異常および歯の萌出時期と順序を説明できる。（教科書P.36-42）
5回目	歯列・咬合の発育と異常：歯列の発育分類および各歯列期の臨床的特徴を説明できる。（教科書P.43-52）
6回目	小児にみられるう蝕、歯周疾患：乳歯および幼若永久歯う蝕の特徴を説明できる。（教科書P.53-60）
7回目	小児にみられる口腔軟組織疾患、小児虐待：小児の口腔粘膜や歯肉の疾患を説明できる（教科書P.61-77）
8回目	小児歯科における患者との対応法：歯科診療室における小児の対応法を説明できる。（教科書P.78-95）
9回目	小児歯科診療とその特徴：小児歯科診療の特徴を説明できる。（教科書P.96-112）
10回目	小児の歯冠修復：乳歯および幼若永久歯の歯冠修復処置の概要を説明できる。（教科書P.112-124）
11回目	小児の歯内療法：乳歯および幼若永久歯の歯内療法処置の概要を説明できる。（教科書P.124-137）
12回目	小児の外科的処置、外傷の処置：乳歯および幼若永久歯の外科的処置の概要を説明できる。（教科書P.137-146）
13回目	咬合誘導：保隙の目的および保隙装置の種類、適応症、利点・欠点を説明できる。（教科書P.146-149）
14回目	う蝕予防：歯磨き、フッ化物の応用、シーラントについて説明できる。（教科書P.149-152,169-185）
15回目	試験・試験解説
準備学習時間外学習	事前に教科書の該当ページを熟読し、授業後には学習した知識を整理・修得し、次回の授業に臨むこと。
評価方法	1. 定期試験（100%） 評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格 定期試験(100%)
受講生へのメッセージ	小児歯科診療では、心身ともに成長発育過程にある小児を対象として、さまざまな歯科治療が行われる。また、小児患者では対応法についても注意する点が多い。この授業を通して、成人とは異なる小児の歯科診療に関する基礎的な知識を身につけていただきたい。

【使用教科書・教材・参考書】

最新歯科衛生士教本　小児歯科　第2版　医歯薬出版

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名（英）	歯科矯正学（ Orthodontics ）	必修選択	必修	年次	2	担当教員	宮澤 健、関谷 健夫 、飯田 資浩
学科	歯科衛生科	授業形態	講義	総時間（単位）	30	開講区分	後期
コース	昼間 Ⅰ部				2	曜日・時限	木曜 3・4限

【授業の学習内容】

マルチブラケット装置などの固定式装置が装着された場合、口腔清掃が難しくなることから、歯科衛生士による口腔衛生指導は歯科矯正治療を行う上で必要不可欠であり、食生活指導や口腔筋機能療法の指導に加え、矯正装置の使用法などを理解することは、チーム医療を担う歯科衛生士として重要である。

※実務者経験：愛知学院大学歯科矯正学講座に所属し、附属病院での歯科矯正治療を担当している。また、歯学部および歯科衛生士の学生指導に携わっている。

【到達目標】

・歯列・咬合の不正に対する治療の必要性とともに、ベネフィットとリスクを説明できる。
・矯正治療の特異性を学習し、臨床の場において診療補助・予防処置および指導ができる。
・歯科矯正治療の目的と必要性を理解し、臨床における治療の流れと使用する器具器材を理解する。

授業計画・内容	
1回目 2回目	矯正歯科治療の目的と必要性、矯正歯科治療における歯科衛生士の役割 （教科書：p1-12）
3回目 4回目	顎顔面と歯列の成長発育、口腔機能の発達 （教科書：p13-22）
5回目 6回目	正常咬合の概念と不正咬合の種類と分類、不正咬合の原因と予防 （教科書：p23-37）
7回目 8回目	矯正歯科診断に必要な検査項目とその方法や意義、歯の移動と固定、歯の移動と組織反応、矯正力と顎整形力、保定 （教科書：p53-63）
9回目 10回目	矯正装置の使用目的と装着時の指導 （教科書：p64-80）
11回目 12回目	矯正歯科治療の実際 （教科書：p82-118）
13回目 14回目	矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割 （教科書：p119-188）
15回目	試験および試験解説
準備学習時間外学習	・歯科矯正学を学ぶ上で、「口腔解剖学」「口腔生理学」「歯科放射線学」「小児歯科学」などの知識は必要不可欠であるため、復習してから臨んでください。 ・回数が進むごとに知識が積み重なっていくため、前の回の復習を予習として実施してください。
評価方法	定期試験（95%） 授業態度（5%） 評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格
受講生へのメッセージ	体調管理には気をつけて、欠席をしない様にしてください。

【使用教科書・教材・参考書】

最新歯科衛生士教本「咀嚼障害・咬合異常2 歯科矯正」

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名（英）	高齢者歯科学（Geriatric Dentistyy）	必修選択	必修	年次	2	担当教員	宇佐美博志・宮本佳宏
学科	歯科衛生科	授業形態	講義または演習	総時間（単位）	15	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部				1	曜日・時限	木曜日1時限

【授業の学習内容】

我が国の総人口は、平成30（2018）年10月1日現在、1億2,644万人となっている。65歳以上人口は、3,558万人となり、総人口に占める割合（高齢化率）も28.1%となった。高齢者が歯科治療を受診する機会が増すと考えられている。高齢者の全体像を把握し、歯科治療における特徴や注意すべき点を学ぶ。
※実務者経験：愛知学院大学歯学部高齢者・在宅歯科医療学講座　講師

【到達目標】

高齢者における歯科治療の特徴や注意点を説明できる。
要介護者や認知症の人の対応を説明できる.

授業計画・内容	
1回目	高齢者をとりまく社会と環境について説明できる
2回目	加齢による身体的・精神的変化と疾患について説明できる
3回目	高齢者に多い全身疾患・障害および口腔疾患について説明できる
4回目	高齢者の状態（生活機能・臨床検査・栄養状態・薬剤服用）の把握について説明できる
5回目	摂食・嚥下リハビリテーションについて説明できる
6回目	高齢者に関わる医療と介護について説明できる
7回目	高齢者歯科における歯科衛生過程について説明できる
8回目	口腔健康管理について説明できる
9回目	試験および試験解説
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	

準備学習時間外学習	高齢者歯科診療の背景にある高齢者の特徴、フレイル、口腔機能低下症、摂食嚥下障害、医療保険、介護保険制度、認知症について最新の情報を得るために新聞、テレビニュース、各種広報誌に目を通す。高齢者の生活を理解するために、要介護者やその家族と交流してみる.
評価方法	定期テストにて知識・技能の到達評価を行う。各講義の最後に小テストを実施する。 1. 定期試験（80%） 2. 小テスト（20%） 評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格
受講生へのメッセージ	魅力：高齢者歯科は患者さんにとって、人生の最期まで関わる歯医者さんです。その中で歯科衛生士にできることは多く、意味があります。患者さんからはもちろん、患者さんのご家族からも、他科からも大変感謝されます。 授業計画：教科書のCONTENTSに沿って内容は構成されていますが、より理解を深めるために教科書に載っていないことも授業内容に取り入れていきます。

【使用教科書・教材・参考書】
教科書：植田耕一郎：歯科衛生学シリーズ　高齢者歯科学第1版. 医歯薬出版
参考書：田村清美、渋谷恭之：地域包括ケアと口腔ケア. 医歯薬出版

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名 (英)	障害者歯科学 (Special Needs Dentistry)	必修 選択	必須	年次	2年	担当教員	石黒　光
学科	歯科衛生科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 1	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	金曜日　1時限

【授業の学習内容】
誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会のもと、その意味を正しく把握し、歯科医療においても特別な配慮が必要な様々な障害児・者に対応できる歯科衛生士が社会から求められている。そのために、障害の特性を理解し、行動調整やコミニュケーションの方法を学び、診療現場での対応だけでなく、地域の福祉施設やデイサービス、在宅の場などに応じて歯科保健指導の支援ができるよう基本的な知識と技術を学ぶとともに、関連する多職種や家族にも、わかりやすく説明できるようにする。

【到達目標】
①共生社会やICFなどの基本的考え方を理解し、説明できる。
②歯科医療現場で、様々な障害児・者が受診するが、それぞれの特性を理解し、その対応のスキルについて説明できる。
③上記の障害児・者自身およびその家族や介護者に、歯科保健の支援について、個々の特性に応じ具体的に説明できる。
④重い障害児・者に対して、全身的な観点からリスク評価を行い、口腔管理について他職に対し説明ができる。
⑤地域の障害児・者の生活環境に応じて、家族や介護者、他職と連携して、ライフサイクルに応じた支援策を提示できる。

授業計画・内容	
1回目	障害の概念と福祉制度　（ICF、共生社会、歯科医療における特別なニーズや対応、障害の受容）
2回目	歯科医療で特別な配慮と支援が必要な障害　（その種別の特徴と理解、歯科診療・保健での支援策）
3回目	障害者とのコミニュケーション法、行動調整法、サポートの際の手法
4回目	障害者に対する健康支援と口腔衛生支援、歯科衛生過程の応用
5回目	障害者歯科医療におけるリスク評価と管理、医療的ケアを要する重症児への対応
6回目	障害者の摂食嚥下機能障害とそのリハビリテーション、栄誉管理
7回目	障害者歯科における多職種連携と地域医療連携
8回目	試験
9回目	
10回目	
準備学習 時間外学習	①福祉的視点で障害児・者の歯科医療をとらえ、ICFの考え方を理解し、説明できる。 ②歯科医療で特別な配慮を要する障害の種別に応じて、その特性と対応法について説明できる。 ③障害児・者に応じた歯科保健支援の方法などについて説明できる。 ④重度の障害児や医療的ケア児のリスク管理について説明できる。 ⑤地域における福祉関係連絡資源と歯科医療機関の連携について説明できる。
評価方法	1．定期試験　70（%） 2．小テスト　20（%） 3．レポート　10（%） 評価方法はＧＰＡ制度となります １００～９０点　Ｓ ８９～８０点　Ａ ７９～７０点　Ｂ ６９～６０点　Ｃ ５９点以下　Ｆ不合格
受講生への メッセージ	日常、障害をもつ人と接する機会がない学生さんは、どう接したらよいかわからず戸惑うことが多いが、歯科医療機関では歯科衛生士として最前線での対応が求められる。新聞やテレビ、インターネットで障害者に関する話題に関心をもつことで、様々な障害の特性を知り、コミニュケーションの手法を学び、歯科保健指導に必要な知識を理解していただき、施設実習につなげ、地域包括ケアの面から多職種と連携してケアする経験をしてほしい。

【使用教科書・教材・参考書】
●歯科衛生士教本「障害者歯科」　医歯薬出版
●スペシャルニーズデンティストリー　医歯薬出版
●歯科衛生士講座　障害者歯科学　永末書店

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名 (英)	歯科予防処置論Ⅲ (Oral Prophy laxis Ⅲ)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	長谷川 純代 山田 和代 ・ 武藤 裕美
学科 コース	歯科衛生科 昼間Ⅰ部	授業形態	実習	総時間 (単位)	60 2	開講区分 曜日・時限	前期 火曜 3・4限

【授業の学習内容】

歯科衛生士の臨床実習では、患者に対して指導者の指示のもと歯科予防処置を実施する。本科目では、その前段階として歯科予防処置Ⅰ・Ⅱで培ってきた知識と技術に、さらに高度な歯肉縁下のための器具器材およびその操作法を修得するため、相互に歯科予防処置を実施する。

※2001年より現在まで一般歯科・歯科大学附属病院・障害者歯科センターで実務経験を積み、「歯周病」および「障害者」の認定歯科衛生士として患者指導に携わってきた。2006年より歯科衛生士専任教員として「歯科衛生士（教育）」の認定を取得し、歯科予防処置論を中心に学生指導携わっている。

【到達目標】

・相互実習の一連の流れを記録し、相互に声掛けを行いながら実施する。
・相互に口腔内診査を実施し、その結果を説明できる。
・１年次の歯肉縁上歯石除去法を復習し、相互に実施する。
・歯肉縁下での器具器材の操作法を習得し、相互に実施する。
・歯科予防処置後の患者説明を実施する。

授業計画・内容	
1回目	歯周組織、歯周病について説明できる。／シックルスケーラーの基本操作を説明し、実施する。
2回目	キュレットスケーラーの種類と特徴を説明できる。／キュレットスケーラーの基本操作を説明できる。
3回目	シックルスケーラーの部位別操作法およびシャープニングを説明し、実施する。
4回目	模型上で前歯部の歯肉縁下歯石除去を実施する。／前歯部用ｷｭﾚｯﾄｽｹｰﾗｰのｼｬｰﾌﾟﾆﾝｸﾞ方法を説明し、実施する。
5回目	模型上で下顎臼歯部の歯肉縁下歯石除去を実施する。／臼歯部用ｷｭﾚｯﾄｽｹｰﾗｰのｼｬｰﾌﾟﾆﾝｸﾞ方法を説明し、実施する。
6回目	模型上で上顎臼歯部の歯肉縁下歯石除去を実施する。／臼歯部用ｷｭﾚｯﾄｽｹｰﾗｰのｼｬｰﾌﾟﾆﾝｸﾞ方法を説明し、実施する。
7回目	シャープニングと技術の振り返りを実施する。
8回目	ファントムと模型を用い、キュレットスケーリングの実技試験を実施する。
9回目	相互実習で前歯部の歯肉縁上縁下歯石の除去とルートプレーニングを実施する①
10回目	相互実習で前歯部の歯肉縁上縁下歯石の除去とルートプレーニングを実施する②
11回目	相互実習で下顎臼歯部の歯肉縁上縁下歯石の除去とルートプレーニングを実施する①
12回目	相互実習で下顎臼歯部の歯肉縁上縁下歯石の除去とルートプレーニングを実施する②
13回目	相互実習で上顎臼歯部の歯肉縁上縁下歯石の除去とルートプレーニングを実施する①
14回目	相互実習で上顎臼歯部の歯肉縁上縁下歯石の除去とルートプレーニングを実施する②
15回目	知識・技術の総まとめとして、全講義の振り返りと部位別操作法の相互実習フィードバックを実施する。
16回目	知識の総まとめとして筆記試験を実施する。
準備学習時間外学習	１年生で履修した「歯科予防処置論Ⅰ・Ⅱ」「「歯周病学」の知識と技術を応用します。関連事項の復習を行ってから、実習に臨んでください。 毎回、前の授業の知識や技術を使い実習が進みます。授業終了後の復習を欠かさないようにしてください。各授業の最初に前回の内容の復習小テストを実施します（評価に含まれる）。 歯石除去には指のトレーニングが必要です。毎日１０分の基本訓練を実施してください。
評価方法	１．定期試験（30%） ２．小テスト（10%） ３．レポート（10%） ４．授業態度（10%） ５．実地試験（40%） 評価方法はＧＰＡ制度となります １００～９０点 Ｓ ８９～８０点　Ａ ７９～７０点　Ｂ ６９～６０点　Ｃ ５９点以下　　Ｆ不合格
受講生へのメッセージ	実習が中心であり、２コマ続きで実施します。内容には継続性があり、授業の進行により知識・技術が積み重ねられていくため、体調管理に気を付け、毎日の予習復習を積極的に行ってください。 相互実習が中心となります。医療安全に留意してください。

【使用教科書・教材・参考書】

最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」、「歯周病学」

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名（英）	歯科保健指導論Ⅲ Oral Health InstructionⅢ	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	熊谷あゆみ
学科	歯科衛生科	授業形態	講義・実習	総時間（単位）	60 2	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	水曜、1・2限

【授業の学習内容】

・各ライフステージの一般的特徴、口腔の特徴、口腔及び全身状態又は社会的背景を理解し、それに応じた口腔保健管理ができる。

※実務者経験：保健所、歯科医院、歯科衛生士養成所に20年以上勤務

【到達目標】

・的確な指導を考え、わかりやすい歯科保健指導ができる

・ライフステージごとに合わせた歯科保健指導ができる

・集団に対し、わかりやすい媒体作製ができる

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション 『妊産婦期』
2回目	小テスト 『妊産婦期』
3回目	小テスト 『乳児期』
4回目	小テスト 『幼児期』
5回目	実習　＜乳幼児の口唇と舌機能について＞
6回目	実習　＜幼児期の集団保健指導＞
7回目	実習　＜集団保健指導:＞
8回目	実習　＜集団保健指導：媒体作製＞
9回目	実習　＜集団保健指導：媒体作製＞
10回目	実習　＜集団保健指導：幼児期・学齢期・成人期＞　発表
11回目	小テスト 『学童期』
12回目	小テスト 『青年期』
13回目	小テスト 『成人期』
14回目	小テスト 『老年期』
15回目	小テスト　まとめ
16回目	筆記試験・試験解説
準備学習 時間外学習	この単元は臨地・臨床実習に向けての単元になります。 世代に応じた歯科保健指導をきちんと理解するために復習必須となります 実習は積極的に取り組んで下さい
評価方法	1. 定期試験（50%） 3. 授業態度（20%） 4. 課題成果（20%） 5. 提出物（10%） 評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格
受講生へのメッセージ	知識の確認とため小テストを行います。 内容には継続性があり、授業の進行により知識、技術が積み重ねられていくため、体調管理に気を付け、予習復習を積極的に行ってください。

【使用教科書・教材・参考書】

最新　歯科衛生士教本　歯科予防処置論・歯科保健指導論

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名（英）	歯科保健指導論Ⅳ Oral Health InstructionⅣ	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	熊谷あゆみ
学科	歯科衛生科	授業形態	講義	総時間（単位）	30	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部				1	曜日・時限	木曜、1・2限

【授業の学習内容】

・対象者のニーズに応じた歯科衛生ケアを科学的に実施するために、歯科衛生ケアプロセス（歯科衛生過程）の基本的知識、技術、態度を理解し作成できるようになる

※実務者経験：保健所、歯科医院、歯科衛生士養成所に20年以上勤務

【到達目標】

・歯科衛生ケアプロセス（歯科衛生過程）を書面化することができる

・歯科衛生評価ができる

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション 歯科衛生過程の進め方歯科衛生アセスメントの情報収集と情報整理（1年生の復習を含む）
2回目	小テスト　歯科衛生過程の進め方
3回目	小テスト　歯科衛生過程の各構成要素
4回目	小テスト　歯科衛生過程の各構成要素
5回目	小テスト　　臨床実習に向けて：歯科衛生過程を考える
6回目	小テスト　　臨床実習に向けて：歯科衛生過程を考える
7回目	小テスト　　臨床実習に向けて：歯科衛生過程を考える
8回目	筆記試験・試験解説
準備学習 時間外学習	この単元は臨地・臨床実習に向けての単元になります。 歯科衛生過程が理解できるように予習・復習は必須です。 グループワークは積極的に取り組んで下さい。
評価方法	1. 定期試験（50%） 3. 授業態度（20%） 4. 課題成果（20%） 5. 提出物（10%） 評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格
受講生への メッセージ	知識の確認とため小テストを行います。 内容には継続性があり、授業の進行により知識、技術が積み重ねられていくため、体調管理に気を付け、予習復習を積極的に行ってください。

【使用教科書・教材・参考書】

最新　歯科衛生士教本　歯科予防処置論・歯科保健指導論

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名（英）	歯科診療補助論Ⅲ Dental AuxiliaryⅢ	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	熊谷あゆみ・小出夕理
学科	歯科衛生科	授業形態	講義・実習	総時間（単位）	60	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部				2	曜日・時限	月曜、3・4限　実習室

【授業の学習内容】
・臨床実習に向けて・・・
歯科診療補助に必要な治療時の補助業務の考え方保存治療時の主要歯科材料の種類と取扱い
（成形歯冠修復材、仮封材、ワックス、　歯肉排除、薬剤について）
・各治療時の診療補助
（保存修復治療、補綴治療、歯内療法、歯周治療、矯正治療、口腔外科処置、小児歯科治療）について理解し、
本授業修了時には各々の説明および治療準備を習得する

【到達目標】
①医療安全の概念、対策、インシデント、アクシデント報告の目的を習得する。
②臨床実習の前段階として診療室における共同動作が理解できる。臨床の場における様々な状況に対応し得る
技能を実習を通して習得できる。
③保存治療、補綴治療、口腔外科治療、歯科麻酔時、矯正治療、小児歯科治療の補助のために必要な治療手順、
薬剤および器材の使用法を習得する。
④症例にあわせた診療の準備や歯科材料の取り扱いが実践できる。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション　歯科診療における基礎知識（復習）
2回目	小テスト　歯科診療における基礎知識
3回目	小テスト　歯科臨床と診療補助 『歯内療法時の診療補助』
4回目	小テスト　歯科臨床と診療補助 『歯内療法時の診療補助』
5回目	小テスト　歯科臨床と診療補助 『歯周外科治療の診療補助』・歯肉パック
6回目	小テスト　歯科臨床と診療補助 『補綴治療時の診療補助』・歯肉圧排・リテーナー
7回目	小テスト　歯科臨床と診療補助 『補綴治療時の診療補助』・義歯
8回目	小テスト　歯科臨床と診療補助 『補綴治療時の診療補助』クラウン、ブリッジ、インプラント
9回目	小テスト　テンポラリークラウンの作製：テンポラリークラウンの目的、用途、作製方法
10回目	テンポラリークラウンの作製：テンポラリークラウンの目的、用途、作製方法
11回目	歯科臨床と診療補助 『口腔外科治療時の診療補助』
12回目	小テスト　歯科臨床と診療補助 『歯科麻酔時の診療補助』
13回目	小テスト　歯科臨床と診療補助 『矯正治療時の診療補助』
14回目	小テスト　歯科臨床と診療補助 『小児歯科治療時の診療補助』
15回目	筆記試験・試験解説
準備学習 時間外学習	この単元は臨床実習の基礎となります。事前学習として1年生の時に勉強した歯科保存学、歯科補綴学、 歯周病学の復習と、2年生前期で履修する口腔外科学、小児歯科学とも関連しますので、復習が必須です。
評価方法	1. 定期試験（50%） 2. 授業態度（20%） 3. 課題成果（20%） 4. 提出物（10%） 評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格
受講生への メッセージ	知識の確認とため小テストを行います。 内容には継続性があり、授業の進行により知識、技術が積み重ねられていくため、体調管理に気を付け、予習復習を積極的に行ってください。

【使用教科書・教材・参考書】
最新　歯科診療補助論・使用器具の取り扱い

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名（英）	歯科診療補助論Ⅳ（臨床検査）（Dental AuxiliaryⅣ）	必修選択	必修	年次	2	担当教員	宮田　聖子・長谷川純代
学科	歯科衛生科	授業形態	実技	総時間（単位）	30	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部				1	曜日・時限	月曜　1・2限

【授業の学習内容】

歯科診療補助論Ⅳの前半では、身体疾患の評価や治療効果評価に関わる臨床検査について講義します。社会の高齢化により、歯科医院や口腔外科にかかる患者さんであっても様々な病気かを抱えています。今後、歯科衛生士には歯科領域のケアだけでなく、全身状態を考慮しながらその対応に当たることが求められると思われます。臨床検査の原理、疾患における臨床検査の意義を理解することにより、患者さんの全身状態を理解したケアができるようになります。
後半では、これまで学んできた講義内容と関連する口腔領域の臨床検査の実践を行います。
※実務者経験：宮田は大学病院に13年以上所属し、臨床検査に関しての経験を有している。主担当は生体検査であるが、検体検査に関する知識や技術の習得は臨床検査技師会の講習会などで研鑽を積んでいる。
※北條・長谷川は、一般歯科に5年以上勤務し、口腔領域の臨床検査経験を有している。

【到達目標】

病院で行われる臨床検査全般について理解し、患者さんから求められれば検査について説明できるようになる。また、患者さんの疾患歴や検査結果から全身状態を把握し、緊急時の対応ができるようになる。
(目標①)臨床検査について理解し、説明できる。
(目標②)臨床検査機器の取扱いを習得する。
(目標③)口腔領域の臨床検査・摂食嚥下関連の検査の種類、検査器具、検査方法を習得する。
(目標④)エックス線撮影法・口腔内写真撮影法を理解し、撮影準備、セッティングを実践できる。

授業計画・内容	
1回目	(目標①)臨床検査概論、生体検査
2回目	(目標②)検体検査、疾患と検査
3回目	(目標②)検査実習(心電図、SpO2/心拍数、血圧、血糖測定)
4回目	(目標①、②)実習の振りかえり、国家試験練習
5回目	(目標③)口腔領域の臨床検査・摂食嚥下関連の検査：味覚検査、細菌検査、唾液の検査、口腔機能検査、口臭検査、摂食嚥下障害のスクリーニングテスト、摂食嚥下障害の検査法
6回目	(目標④)エックス線撮影法①：口腔内エックス線撮影、パノラマエックス線撮影、頭部エックス線規格撮影、エックス線写真の整理
7回目	(目標④)エックス線撮影法②：口腔内エックス線撮影、パノラマエックス線撮影、頭部エックス線規格撮影、エックス線写真の整理
8回目	(目標④)口腔内写真撮影法：口腔内写真撮影法を理解する(カメラ仕組み、準備、手順)
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習時間外学習	(目標①)臨床検査は生理学と生化学を特に理解していないと検査内容についても理解できません。これまでに習った内容を復習しておく必要があります。 (目標②)実習前の回までに学習した内容を再度振り返っておくと当日の実習が理解しやすくなります。 (目標③)予習として「高齢者歯科」「障害者歯科」「摂食嚥下リハビリテーション」で学んだ内容の復習が必要です。 (目標④)予習として「歯科放射線学」のパノラマX線写真撮影法、デンタルX線写真撮影法の復習が必要です。
評価方法	1. 授業態度50% 2. レポート50% 評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C　59点以下　F不合格
受講生へのメッセージ	臨床検査は患者さんの現在の状態、病期の予後を予測するうえで必須の医療です。臨床検査を理解し、患者さんに説明できるようになることで、キラッと光る歯科衛生士になりましょう。

【使用教科書・教材・参考書】
教科書：最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名（英）	歯科診療補助論Ⅴ（介護技術）（Dental AuxiliaryⅤ）	必修選択	必修	年次	2	担当教員	鈴木　那知子
学科	歯科衛生科	授業形態	実技	総時間（単位）	30	開講区分	後期
コース	昼間　Ⅰ部				1	曜日・時限	水曜　1・2限

【授業の学習内容】

「口から食べること」を支援し、その人らしく生きるためのQOLの維持、向上に果たす歯科の役割は大きいと考えられます。将来、障害者歯科治療、在宅歯科診療、居宅療養管理指導等に従事するにあたり必要となる身体介護技術、口腔ケア技術を学び実技演習を通し習得します。医療、介護に必要な知識を確実に習得する。

【到達目標】

(目標①)介護、介護（実習）の心構えについて理解できる。共感的理解と基本的態度の形成ができる。
(目標②)高齢者・障害者と栄養・食生活、食事の支援について理解できる。
(目標③)口腔ケアの意義と目的、口腔清掃用品の種類、口腔ケアについて理解できる。有病高齢者への口腔ケア、要介護高齢者への口腔ケアが実践できる。

	授業計画・内容
1回目	介護の基礎①：介護とは介護の実習の心構え介護の基礎となるもの、援助的コミヌケーション、認知症の症状を理解する。（動画を視聴）
2回目	介護の基礎②食支援（1）摂食嚥下とは？実際に飲食を通し舌、頬の動きを考える。
3回目	介護の基礎③食支援（2）要介護者への安全な食事介助方法、食形態を相互実習にて学習する。
4回目	介護の基礎④：高齢者の特徴、加齢による身体変化、歩行時の介護、移動・ユニットへの移乗等介護高齢者を疑似体験する。
5回目	口腔衛生管理①：口腔ケアの意義と目的、口腔清掃用品の種類、口腔ケア・、デンチャーケアについて学習する。
6回目	口腔衛生管理②：有病者、要介護高齢者への口腔ケア（1）相互実習にて口腔ケア用品の取り扱いを学習する。
7回目	口腔機能管理①：口腔機能低下症について学ぶ
8回目	口腔機能管理②：確認テスト・口腔機能アセスメント学習、相互実習にてアセスメントからの問題点を確認する。

準備学習時間外学習	この単元は臨地実習の基礎となり、実践的な内容となります。事前学習として前期に勉強した障害者歯科学、高齢者歯科学のリハビリテーション概論を基礎として各症例に応じた患者への対応や口腔ケア技術を習得します。また2年生後期で履修する摂食嚥下リハビリテーション学とも関連しますので、しっかり復習するようにしてください。		
評価方法	1. レポート（30%） 2. 小テスト（40%） 3. 授業態度（30%） 出席含む	評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格	
受講生へのメッセージ	実習が中心であり、2コマ続きで実施します。内容には継続性があり、授業の進行により知識・技術が積み重ねられていくため、体調管理に気を付け、予習復習を積極的に行ってください。		

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：最新歯科衛生士教本「摂食嚥下教本」「高齢者歯科」

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名（英）	歯科診療補助Ⅵ（歯科材料学） Dental AuxiliaryⅥ（Dental Material）	必修選択	必修	年次	2	担当教員	福井　壽男
学科	歯科衛生士学科	授業形態	実技	総時間（単位）	30	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部				1	曜日・時限	火曜　3・4限

【授業の学習内容】

歯科疾患は自然治癒しないため、人工的材料を用いて機能回復・審美性回復を図る。その材料は口腔内環境に適応し、しかも十分な機能回復を有する性質が求められる。講義では、歯科材料の分類、要求される必要性質について講義する。総論では、物質としての歯科材料の成り立ち、性質を講義し、各論ではそれぞれの材料の特性について、実物を見せ操作しながら解説する。
※実務者経験：1970年に歯学部を卒業後、母校愛知学院大学で助手、准教授、教授として教育研究に携わってきた。主な研究は歯科用金属、セラミックスで、歯科保険適用材料の研究を通じて社会貢献したと自負している。1978年アメリカカルフォルニア大学で客員教授として招聘され研鑽をつみました。帰国後、母校および各専門学校の学生に歯科材料の講義および実習に携わっている。国内外で学会発表は多数あります。

【到達目標】

歯科材料にたいする基本的な知識と操作法を修得する。むし歯や歯が欠損した場合、その機能回復、審美性の回復には人工的材料が必要不可欠である。歯科疾患に応用する歯科材料について実物を操作して講義を行う。
＜具体的な目標＞
歯科治療は、一般医療とは異なり機能回復のための修復物や補綴物に代わる材料および接着剤が必要である。
このような材料の取り扱いが予後に大きく影響する。材料の特性を十分理解し、口腔内での取り扱いについて説明する。また、各診療領域で特殊な機器を使用するので、その機器について正しく理解し、迅速に対応できる知識を習得出来る。

事業計画・内容	
1回目	歯科材料と歯科衛生士の職務について説明ができる
2回目	歯科材料の基礎知識について患者さんに説明ができる
3回目	歯科衛生に係わる材料の特性について説明ができる
4回目	口腔内の陰型を採得する印象材がについて説明ができる
5回目	修復物の作製に係わる模型材について説明ができる
6回目	修復物を口腔内に装着する合着・接着材についての特性が説明ができる
7回目	成形修復材について患者さんに説明ができる
8回目	仮封材について説明ができる
9回目	暫間修復材と仮着用セメントについて説明ができる
10回目	ワックスについて説明ができる
11回目	修復材料としての金属材料の特性について説明ができる
12回目	修復材料としてのセラミックスの特性について説明ができる
13回目	小児歯科、矯正用材料について説明ができる
14回目	インプラントについて材料から説明ができる
15回目	日進月歩の歯科材料の進展とその応用範囲について説明ができる

準備学習時間外学習	歯科治療に使用される材料は全て原子の結合から出来ています。したがって、中学・高校時代に習った原子、分子の基礎的知識を復習しておくこと大切です。		
評価方法	定期テスト と出席	評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格	定期テスト（95%）と、出席（5%）で判定
受講生へのメッセージ	歯科治療において歯科材料は不可欠なものです。しっかり学んで患者さんの健康に寄与してください。		

【使用教科書・教材・参考書】

教科書　歯科衛生士教本：歯科材料
参考書　Anuusavice KJ ed. Philips' Science of Dental; Materials St Louis MI,USA

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名 (英)	臨地臨床実習 Ⅰ (Clinical Practice Ⅰ)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	臨床実習指導者専任教員
学科 コース	歯科衛生科 昼間 Ⅰ部	授業形態	実習	総時間 (単位)	45 1	開講区分 曜日・時限	後期

【授業の学習内容】

学外実習を行います。

各々学生が配置された歯科医院等（保健センター、障害者歯科センター、訪問歯科などを含む）に出向き、施設に勤務している歯科医師や歯科衛生士の指導を受け、施設における歯科衛生士の位置づけや役割を学ぶとともに、施設で歯科衛生士がどのように対象者に歯科衛生士業務を行っているかを学ぶ。

実習期間は、計6日間（1日：7.5時間）

【到達目標】

・歯科衛生士が働く様々な現場を見学し、歯科衛生士の活躍の場の広がりを知る。
・各施設で対象者の違いによる歯科衛生士の対応の違いや業務上の留意点を知る。
・障がいのある人への病態に応じた行動調整法を実践する。
・保健センターにおける歯科衛生士の役割を知る。
・歯科衛生士の実施する公衆衛生活動を理解する。

授業計画・内容	
	1）態度 ・時間管理ができる（余裕を持って行動できる）　・体調管理ができる ・施設の規則を守れる　・積極的に実習に参加できる ・スタッフと円滑なコミュニケーションがとれる　・私語なく、実習に集中できる（公私の区別） 2）言葉遣い ・挨拶や返事はきちんとできている　・敬語が適切に使えている 3）身だしなみ ・実習衣は清潔かつ適切に着用している　・髪はきちんとまとめられている ・爪（長さ、マニュキア）、香水（強い香りを発する製品など） ・実習のルールに従った身だしなみ（ヘアカラー、まつ毛、コンタクトなど） 4）知識の習得 ・実習前の努力（事前学習など）があった　・知識不足に対しての努力（質問、調べ学など）があった 5）技術の習得 ・出来なかったことに対しての向上がみられた　・指示されたことを正しく理解し、行動できた 6）実習日誌・記録 ・実習日誌の提出期限は守れた　・指摘箇所をきちんと訂正した
準備学習時間外学習	学内で学んだ知識や技術を統合した実習となるため、既修得の分野について復習してから実習に臨んでください。実習の記録として実習日誌を作成し（評価対象となります）、実習施設と学校への提出を行ってください。
評価方法	1．指導者評価（50%） 2．課題提出・成果（50%） 評価方法はＧＰＡ制度となります １００～９０点 Ｓ ８９～８０点 Ａ ７９～７０点 Ｂ ６９～６０点 Ｃ ５９点以下 Ｆ不合格
受講生へのメッセージ	実習施設は学校と契約を交わし、、愛知県に登録された施設で実施します。

【使用教科書・教材・参考書】

臨床実習の手引き

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名 (英)	臨地臨床実習Ⅱ (Clinical Practice Ⅱ)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	臨床実習指導者・専任教員
学科 コース	歯科衛生科 昼間Ⅰ部	授業形態	実習	総時間 (単位)	180 4	開講区分 曜日・時限	後期

【授業の学習内容】

学外実習を行います。

各々学生が配置された歯科医院に出向き、施設に勤務している歯科医師や歯科衛生士の指導を受け、施設における歯科衛生士の位置づけや役割を学ぶとともに、施設で歯科衛生士がどのように対象者に歯科衛生士業務を行っているかを学ぶ。

実習期間は、計23日間（1日：8時間）

【到達目標】

・歯科診療所での歯科衛生士の業務と役割を説明する。

・歯科診療所での治療の流れを理解し、既習の知識と統合する。

・歯科医療関連職種との業務の違いと特性を理解し、連携の手法を知る。

・患者やスタッフとのコミュニケーションを積極的に実施する。

授業計画・内容	
	1）態度 ・時間管理ができる（余裕を持って行動できる）　・体調管理ができる ・施設の規則を守れる　・積極的に実習に参加できる ・スタッフと円滑なコミュニケーションがとれる　・私語なく、実習に集中できる（公私の区別） 2）言葉遣い ・挨拶や返事はきちんとできている　・敬語が適切に使えている 3）身だしなみ ・実習衣は清潔かつ適切に着用している　・髪はきちんとまとめられている ・爪（長さ、マニュキア）、香水（強い香りを発する製品など） ・実習のルールに従った身だしなみ（ヘアカラー、まつ毛、コンタクトなど） 4）知識の習得 ・実習前の努力（事前学習など）があった　・知識不足に対しての努力（質問、調べ学など）があった 5）技術の習得 ・出来なかったことに対しての向上がみられた　・指示されたことを正しく理解し、行動できた 6）実習日誌・記録 ・実習日誌の提出期限は守れた　・指摘箇所をきちんと訂正した
準備学習時間外学習	学内で学んだ知識や技術を統合した実習となるため、既修得の分野について復習してから実習に臨んでください。実習の記録として実習日誌を作成し（評価対象となります）、実習施設と学校への提出を行ってください。
評価方法	1．指導者評価（50%） 2．課題提出・成果（50%） 評価方法はＧＰＡ制度となります １００～９０点　Ｓ ８９～８０点　Ａ ７９～７０点　Ｂ ６９～６０点　Ｃ ５９点以下　Ｆ不合格
受講生へのメッセージ	実習施設は学校と契約を交わし、、愛知県に登録された施設で実施します。

【使用教科書・教材・参考書】

臨床実習の手引き

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名（英）	医学概論	必修選択	必修	年次	2	担当教員	持田圭仁, 片田栄一 大原弘隆
学科	歯科衛生科	授業形態	講義または演習	総時間（単位）	15	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部				1	曜日・時限	下記参照

【授業の学習内容】
超高齢社会を迎え、歯科では糖尿病、高血圧、認知症など他の基礎疾患をもつ患者さんの診療を行う機会が増えつつある。そのため、それら基礎疾患に関連する医学的知識を十分に習得した上で、歯科診療や口腔管理に当たる必要がある。この科目では、身体および精神疾患についてその症候・病態・治療などについて学習する。
実務者経験：
●持田圭仁(精神科医)；名古屋私立大学病院（2年），蒲郡市民病院(1年),豊川市民病院(2年9か月),三重県立小児心療センター(3年3か月),名古屋市立西部医療センター(3年),名古屋市立大学医学部附属西部医療センター(1年)
●片田栄一(内科医)；名古屋市立大学病院(9年),浜松遠州総合病院(5年),津島市民病院(3年),名古屋市立城北病院(4年),名古屋市立西部医療センター(10年),名古屋市立大学医学部附属西部医療センター(1年)
●大原弘隆(内科医)；名古屋市立緑市民病院(1年),岐阜県立多治見病院(6年6か月),名古屋市立大学病院(24年5か月),名古屋市病院局(5年),名古屋市立大学医学部附属西部医療センター(1年)

【到達目標】
下記分野の身体・精神疾患について、その症候や病態について説明できるようにする。抗血小板薬などの歯科治療の際に注意すべき内服薬についても正しく理解する。また、問診を中心とした診察や患者さんやご家族の方への説明が円滑にできるよう幅広い知識を習得する。

授業計画・内容	
1回目	9月13日（水）第3限目：消化器疾患について説明できる（担当：大原）。
2回目	9月20日（水）第3限目：循環器疾患について説明できる（担当：大原）。
3回目	9月27日（水）第3限目：呼吸器疾患について説明できる（担当：大原）。
4回目	10月4日（木）第3限目：精神疾患について説明できる（担当：持田）。
5回目	10月11日（水）第2限目：脳神経疾患について説明できる（担当：片田）。
6回目	10月18日（水）第3限目：代謝・内分泌疾患について説明できる（担当：片田）。
7回目	10月25日（水）第3限目：がん・アレルギーについて説明できる（担当：大原）。
8回目	試験および解説
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	

準備学習時間外学習	1年次に学んだ解剖学や生理学などの基礎医学を十分に復習した上で授業に望む必要がある。また、授業時間外に各自与えられたテーマに関して参考文献や資料を読み、資料作成を行う時間を確保する必要がある。		
評価方法	定期試験：90% 課題成果：10%	評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格	
受講生へのメッセージ	超高齢社会を迎え、歯科では糖尿病、高血圧、認知症など他の基礎疾患をもつ患者さんの診療を行う機会が増えつつある。そのため、それら基礎疾患に関連する医学的知識を十分に習得する必要があります。しかし、授業数が限られているため、特に重要と考えられる疾患について授業で解説します。わからないことは授業中に質問して解決しようとする積極的な姿勢が望まれます。		

【使用教科書・教材・参考書】
歯科衛生士のための全身疾患ハンドブック （医歯薬出版株式会社）

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名（英）	看護学概論（Nursing Introduction）	必修選択	必修	年次	2	担当教員	
学科	歯科衛生科	授業形態	講義	総時間（単位）	15 1	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	木曜　2限

【授業の学習内容】

1. 看護の基本のなる概念　2. バイタルサインの測定／フィジカルアセスメント　3. 生活援助技術／認知症の看護
4. 感染防止対策／スタンダードプリコーション／医療安全　5. 救命救急センターにおける看護／終末期の看護
6. 地域包括ケアシステムにおける在宅看護の役割　7. 医療倫理／災害看護

【到達目標】

チーム医療において多職種と効果的な協働を図るために医療専門者として有用な看護の知識と技術において理解する
具体的には、看護の対象者や主な看護活動の場、看護における倫理、患者の安全、安楽を守る看護技術のついて理解を深める。

授業計画・内容	
1回目	看護の基本となる概念
2回目	バイタルサインの測定／フィジカルアセスメント
3回目	生活援助技術／認知症の看護
4回目	感染防止対策／スタンダードプリコーション／医療安全
5回目	救命救急センターにおける看護／終末期の看護（エンド・オブ・ライフケア）
6回目	地域包括ケアシステムにおける在宅看護の役割
7回目	医療倫理／災害看護
8回目	試験・解説
準備学習時間外学習	口腔ケア、清潔援助、倫理に対して予習があると授業の理解が深まります。 授業でのプリントの復習を中心に学習してください。
評価方法	1. 定期試験（80%） 2. 授業態度、グループワーク（20%） 評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格
受講生へのメッセージ	医師の診療を看護師が補佐するのと同様で歯科医師の治療をサポートするのが歯科衛生士さんです。 看護師の知識と技術を知ることにより多職種連携や協働ができるように願います。

【使用教科書・教材・参考書】

資料配布

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名（英）	リハビリテーション概論（Rehabilitation Introduction）	必修選択	必修	年次	2年	担当教員	濱谷　光陽
学科	歯科衛生科	授業形態	講義	総時間（単位）	30	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部				2	曜日・時限	木曜日3限

【授業の学習内容】

チーム医療に必要なリハビリテーションの概念を理解し、ICF分類を活用できる。また、臨床において遭遇する代表的疾患の障害を理解し、介助時のリスク管理及び注意事項を実践できる。昭和62年に免許を取得し、実務者経験は15年で、総合病院（急性期～回復期）に所属する。主業務は、脳血管障害や整形疾患の術後リハビリテーションを行っていた。
また、老人保健施設など福祉系施設にも所属し、高齢者を取り囲む障害・環境を考慮し、在宅復帰に向けたリハビリテーションを行っていた。
教育経験は17年であり、「生体の構造と機能」「障害学」などの基礎系科目を担当していた。

【到達目標】

リハビリテーションの概念を理解し、ICFを用いて障害の分類が出来る。また、障害体験を実施し、車椅子生活の不自由を経験する。臨床にて係わりを持ちやすい代表的疾患である脳血管障害、高次脳機能障害、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、関節リウマチの障害を理解する。

授業計画・内容	
1回目	リハビリテーション,ノーマライゼーションについて
2回目	障害分類（ICF）について
3回目	リハビリテーションチーム医療について
4回目	障害体験（屋外車椅子体験）
5回目	障害受容について
6回目	機能障害（関節拘縮、筋力低下など）,廃用症候群、過用症候群、誤用症候群
7回目	障害者体験（片麻痺体験・高齢者体験）
8回目	脳血管障害の病態・障害
9回目	パーキンソン病の病態・障害
10回目	起居動作、立ち上がり動作介助
11回目	多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症の病態・障害
12回目	脊髄小脳変性症の病態・障害
13回目	脊髄損傷の病態・障害
14回目	関節リウマチの病態・障害
15回目	装具装着方法、理学療法作業療法の治療
準備学習時間外学習	
評価方法	1. 定期試験（100%） 2. 小テスト（%） 3. レポート（%） 4. 課題成果（%） 5. 実地試験（%） 評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格
受講生へのメッセージ	歯科衛生士になぜ、リハビリテーションについて知る必要があるのかと疑問もあると思いますが、歯科医院に就職すると上記のような障害を持った患者様も来院されます。その際に、介助など必要になるかもしれません。そのためにも、リハビリテーションについての知識も持っておいてください。

【使用教科書・教材・参考書】

新訂版　地域包括ケアと口腔ケア 口腔保健協会

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名(英)	摂食嚥下リハビリテーション学/小児（Dysphagia Rehabilitation of children ）	必修選択	必須	年次	2年	担当教員	石黒　光
学科	歯科衛生科	授業形態	講義	総時間(単位)	15 1	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	金曜日　1時限

【授業の学習内容】
摂食嚥下機能について、従来の咀嚼機能に重点が置かれ摂食機能について捕食から嚥下までを一貫して学び、近年、重症児、とくに医療的ケアを要する小児の増加が顕著で、これらの患者の摂食嚥下機能障害に対応できる歯科衛生士を養成することを目的とする。本講義では、小児について乳児から摂食嚥下機能がどのように発達、学習していくか、その過程でどんな問題により機能が障害されるかを理解すること。講義終了時点では、解剖学的知識をふまえ、発達的観点で摂食嚥下過程を理解し、その障害について評価し、リハビリテーションの手法、障害に応じた食介助法、食形態など説明できるようにする。
実務経験：1979～2016年まで愛知県コロニー中央病院歯科で、多数の重症児を診療し、その後、重症児デイで摂食嚥下のリハビリテーションに関わっている。朝日大学障害者歯科非常勤講師。

【到達目標】
①摂食嚥下に関わる器官の解剖学的な知識を機能との関係で説明できる。
②摂食嚥下の発達プロセスについて、全身の発達とともに関連付けて説明できる。
③重症児の摂食嚥下機能の障害を理解し、その原因について知る。
④その機能障害の評価ができる。
⑤評価をふまえ訓練法、食介助法、食事形態などの対応について説明できる。

授業計画・内容	
1回目	リハビリテーション概論・総論
2回目	摂食嚥下のメカニズム
3回目	小児の摂食嚥下機能の発達
4回目	高齢者の摂食嚥下機能の低下と障害
5回目	摂食嚥下機能の評価・検査、リハビリテーション
6回目	摂食嚥下機能障害の患者に対する食事姿勢、介助法、食形態、栄養
7回目	摂食嚥下機能障害と口腔ケア、地域における多職連携した支援法
8回目	試験
9回目	
10回目	
準備学習時間外学習	①解剖学で学んだ器官と口腔生理学での知識と関連付けて、学習することが必要です。 ②小児の身体的、精神的発達と摂食嚥下機能の発達を関連付けて学ぶため、小児歯科など関連づけて学習する。 ③障害の特徴を十分理解したうえで、歯科医療や保健指導でのリスクについて予習が必要です。 ④摂食嚥下機能の障害について、何が問題でうまく食べられず、飲み込めないかを検査、評価し、リハビリテーションを相互実習などを通じ学習する。
評価方法	１．定期試験　70（%） ２．小テスト　20（%） ３．レポート　10（%） 評価方法はＧＰＡ制度となります １００～９０点　Ｓ ８９～８０点　Ａ ７９～７０点　Ｂ ６９～６０点　Ｃ ５９点以下　Ｆ不合格
受講生へのメッセージ	歯科分野で「食べる」ことについては咀嚼がメインですが、この講義では、日常何気なく食べて嚥下するという機能全般を、解剖学と生理学を重ね合わせて理解します。この摂食嚥下機能を私たちが、どう獲得するかを口腔咽頭の各器官の神経支配や筋肉の動きを把握し、障害がある子どもたちがなぜうまく摂食嚥下できないかを理解し、そのうえで歯科衛生士としてリハビリテーション的思考で対応法や食形態などについても学びます。この講義後の高齢者につなげます。

【使用教科書・教材・参考書】
教科書：　歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション　医歯薬出版
参考書：　小児の摂食嚥下リハビリテーション　医歯薬出版
　　子どもの摂食・嚥下障害　永井書店

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名 （英）	摂食嚥下リハビリテーション （成人） （　Dysphagia Rehabilitation Science　）	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	岡本　美英子
学科	歯科衛生科	授業 形態	講義	総時間 （単位）	15 1	開講区分	後期
コース	昼間Ｉ部					曜日・時限	水曜　１・２限

【授業の学習内容】
食べる機能の障害を有する対象者に、適切な歯科衛生ケアを施行するために必要な知識・技術・態度を修得する。
高齢者歯科医療、在宅訪問歯科医療における摂食嚥下リハビリテーションの役割を理解し、具体的に訓練などが行えるようになる。
※実務者経験：2014年4月～藤田医科大学病院にて、多職種と連携し主に成人に対する歯科診療および摂食嚥下リハビリテーションを行っている。また出向先として回復期リハビリテーション病院や在宅訪問診療での摂食嚥下リハビリテーションにも携わっている。

【到達目標】
①摂食嚥下に関わる解剖・生理、加齢変化を説明できる。
②摂食嚥下障害の原因となる疾患、病態を説明できる。
③摂食嚥下障害のスクリーニング・精密検査を説明できる。
④その機能障害の評価ができる。
⑤評価をふまえた訓練法、食事介助法、食事形態などの対応について説明できる。

授業計画・内容	
1回目	摂食嚥下リハビリテーション概論、障害者・要介護高齢者について
2回目	摂食嚥下に関わる解剖・生理、加齢変化
3回目	摂食嚥下障害の原因となる疾患、病態
4回目	摂食嚥下障害のスクリーニング・精密検査
5回目	摂食嚥下障害者への対応1（機能訓練）
6回目	摂食嚥下障害者への対応2（リスク管理、食事介助）
7回目	摂食嚥下障害者への対応3（口腔ケア）、栄養管理
8回目	試験　および　試験解説
9回目	
10回目	
準備学習 時間外学習	①解剖学や口腔生理学の知識と関連付けて学習することが必要です。 ②加齢変化や全身疾患など、高齢者歯科の知識と関連付けて学習することが必要です。 ③摂食嚥下機能の障害について、なぜ食べられないか、なぜ飲み込めないかを評価しながらリハビリテーションを組み立てる考え方を習得することが必要です。
評価方法	１．定期試験（80%） ２．レポート（20%） 評価方法はＧＰＡ制度となります １００～９０点　Ｓ ８９～８０点　Ａ ７９～７０点　Ｂ ６９～６０点　Ｃ ５９点以下　Ｆ不合格
受講生への メッセージ	高齢化社会において、病気を持つ患者さんは増えつつあり、同時に嚥下障害を持つ患者さんも増えています。 摂食嚥下リハビリテーション学は、口のプロフェッショナルとして、今後欠かせなくなる領域です。 解剖・口腔生理学、高齢者歯科などと結びつけ、実際の場面を想像しながらしっかり学んでいきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】
教科書：「歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション」（医歯薬出版）、
参考書：「摂食嚥下リハビリテーション　第3版」（医歯薬出版）

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名 (英)	子どもコミュニケーション (Children's Communication)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	専任教員
学科	歯科衛生科	授業形態	講義 または 演習	総時間	15	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部			(単位)	(1)	曜日・時限	金曜1.2限

【授業の学習内容】
保育者として、歯科衛生士として、子どもと関わる際に適切な援助ができるよう、子どもに対するコミュニケーションスキルを学ぶ。
そして、両職種の知識を活かし、現場で活かせる媒体を制作、発表することにより、具体的な援助方法を考え検討していく。

【到達目標】
・小児のコミュニケーションスキルの発達や特性など、基本的な知識を理解する。
・具体的な援助の方法、媒体を通した伝達方法を知り、実践力を身につける。
・発表を通して、子どもたちに伝わる表現スキルや工夫を考える。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション〈子どもの発達段階とコミュニケーションスキル、媒体紹介、現場での取り組みや実践方法を知る〉
2回目	乳幼児の発育・発達①〈年齢別の子どもの発育・発達について理解し、現場でのイメージができる。〉
3回目	乳幼児の発育・発達②〈年齢別の子どもの発育・発達について理解し、現場でのイメージができる。〉
4回目	子どもの心理①〈子どもの考え方の特徴を理解し、関わり方のイメージを持つ。〉
5回目	子どもの心理②〈子どもの考え方の特徴を理解し、関わり方のイメージを持つ。〉
6回目	媒体製作〈発達段階に合わせた媒体作りの計画を立て、見通しを持って制作に取り掛かる〉
7回目	媒体製作〈計画に基づき、制作を進めることができる〉
8回目	発表・振り返り〈歯科指導の実践を行う・実践のまとめができる〉
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習時間外学習	子どもたちの興味をひく媒体について、インターネットや文献を参考にして事前学習をしておきましょう。 媒体制作の準備期間は極めてタイトなスケジュールになります。しっかりとグループ内で役割分担をし、全員で協力をして計画的に作業を進めましょう。必要な場合は授業外に各々集まって作業を進めることもあるかと思います。
評価方法	1．出席（50%） 2．授業取り組み姿勢、振り返りレポート、発表（50%） 評価方法はＧＰＡ制度となります １００～９０点　Ｓ ８９～８０点　Ａ ７９～７０点　Ｂ ６９～６０点　Ｃ ５９点以下　Ｆ不合格
受講生へのメッセージ	子どもにとって歯の健康を維持することは基本的生活習慣の中でも非常に重要になってきます。貴重な多職種連携授業となりますので、お互いの学科で学んだことを積極的に伝え合ったり、学年を超えてアイデアを出し合ったりすることで自らの学びに繋げましょう。

【使用教科書・教材・参考書】プリント配布

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名（英）	医療保険・医療管理（Medical Insurance・Medical Management）	必修選択	必修	年次	2	担当教員	亀井　俊雄
学科	歯科衛生科	授業形態	講義	総時間（単位）	15 1	開講区分	後期
コース	昼間Ｉ部					曜日・時限	水曜　3限

【授業の学習内容】

歯科医療は、診療報酬体系の中に位置づけられています。診療報酬を体系的に理解することは、治療の全体像の把握につながります。また、歯科衛生士に関係が深い口腔管理についても、大きく変化しています。本授業を通して臨床の実戦力を養う。

※実務者経験：1991年4月～1997年3月愛知県歯科医師会社会保険部部員でした。会員である歯科医師に対して社会保険(医療保険)を理解しやすいように伝達・講習を行った。1997年～2003年まで中区歯科医師会社会保険地区担当者、2007年～2011年まで中区歯科医師会専務、2011年～2017年まで副会長として社会保険・医療管理を主に担当していた。

【到達目標】

・保険診療の仕組みや内容を理解する。
・カルテの略称・カルテ用語を理解して、診療内容を読み取り、診療の準備をできるようにする。
・診療上必要な医療安全対策について学ぶ。

授業計画・内容	
1回目	臨床実習に行く心構え、保険点数表の見方、保険用語略称、保険の種類について学ぶ
2回目	臨床実習先で困った事、わからなかった事について話し合う。実際の診療（カルテ・レセプト）の流れを学ぶ
3回目	臨床実習先での質問、歯周病治療についての流れを学ぶ
4回目	臨床実習先での質問、教科書(修復・歯内治療・クラウンブリッジ・義歯・抜歯)
5回目	臨床実習先での質問、レセプト、歯牙の形態について学ぶ
6回目	臨床実習先での質問、医療管理（消毒・滅菌）を学ぶ
7回目	臨床実習先での質問、医療管理（心臓病・糖尿病等の基礎疾患患者への対応）を学ぶ、今までの復習
8回目	試験　および　試験解説
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習時間外学習	各回で講義後にレポートを作成し、提出する。 臨地臨床実習の中で、カルテを参照し、治療の流れを理解し、日誌を作成する。
評価方法	1. 定期試験（60%） 2. 授業態度（20%） 3. レポート（20%） 評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格
受講生へのメッセージ	病院・診療所などでの臨床実習に際し、治療準備・治療・後片付けがスムーズに行えるようにしたい。そのためにカルテの内容が理解できるように学習し、治療時の感染などにも注意できるように学んで臨床実習に臨めるようにしたい。また、患者さんから感染しない、あるいは患者さんへ感染させない等、医療人としての基礎を身に着けて欲しい。

【使用教科書・教材・参考書】

歯科診療報酬入門　医歯薬出版株式会社

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名（英）	歯科衛生研究(Dental Hygiene Research)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	井坂　雅徳
学科	歯科衛生科	授業形態	講義	総時間（単位）	15	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部				1	曜日・時限	金曜　2限

【授業の学習内容】

臨床研究に必要な基礎的能力は、生涯にわたり必要である。統計学等の数学的な考え方は、臨床研究以外にも役立ち、とても大切な知識である。歯科保健指導や口腔ケアなど、歯科衛生士業務の実践場面での疑問や問題を自ら解決していくためには、これらの基礎的能力が必須である。この講座は、臨床面で直面するデータを統計学的に考え、理化学的に発表できることを目標としている。

【到達目標】

目標①　どのようなデータにおいても、統計学的に処理できる基礎的尿力を理解、判断できることを習得する。
目標②　科学的根拠に基づいた歯科衛生行動をとるために、歯科衛生、歯科臨床に関する課題を自ら見出し、研究を行い、論文として作成するための基本的な知識、技術、態度を習得する。
目標③　論文のプレゼンテーションができる。論文とは何かを理解できる。

授業計画・内容	
1回目	目標①②基礎的なデータ処理、データとは何かを理解する。前処理とは何かを理解する。
2回目	目標①②統計とは何かを理解する。自分で統計を取って計算し、理解する。
3回目	目標①②統計を取るための研究立案を考える
4回目	目標①②論文を検索する。文献を検索する。
5回目	目標①②③論文とはなにか。論文の構成、読み方、理解の仕方を理解する。
6回目	目標①②③論文抄読会　統計データを使った論文のプレゼンテーションとその理解、討論を行う
7回目	目標①②③統計データ　発表会　自分で計算した統計データを発表し、討論を行う
8回目	試験および試験解説
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	

準備学習時間外学習	統計処理を行うには計算が必要です。文献を読むには辞書（英和、和英、国語）が必要です。プレゼンテーションを行うには、パワーポイントが使えることが必須です。各自準備をしてください。		
評価方法	1. 定期試験（%） 2. 小テスト（%） 3. レポート（%） 4. 課題成果（%） 5. 実地試験（%）	評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格	
受講生へのメッセージ	理化学的にデータを判断するには統計学の知識が必須です。臨床でも基礎でも、この統計学を理解していないと正しい解釈ができません。この講座で正しい統計学を学び、生かしてください。		

【使用教科書・教材・参考書】

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名 (英)	教養演習Ⅱ (Liberal Arts Exercises)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	熊谷あゆみ
学科 コース	歯科衛生科 昼間Ⅰ部	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日・時限	前期　月曜２限 後期　水曜４限

【授業の学習内容】
専門学校生として、卒業後社会人として必要な教養を身につけるための科目です。学内では様々なイベントを通し、他学科、他学年と交流を持つことで、コミュニケーション能力を身につけます。学外では見学や実習などの学内では得られない体験を通 し、将来のビジョンを明確化します。

【到達目標】
・学校行事を通して、地域貢献やボランティア活動を実施する。
・グループワークを通じて、多角的なものの見方と価値観を理解する。
・自分の意見を発表することで、自分の意見をまとめ、人に伝える能力を養う。
・歯科衛生士が働く現場を見学し、歯科衛生士像を明確化する。
・歯科関連施設や行事を見学し、専門科目に対する興味や関心を得る。
・既取得内容の現場での実践状況を知る。

授業計画・内容	
1回目	昨年の教養演習の中で印象に残ったものを新1年生の前で発表する。
2回目	新学年の授業にどのように取り組み効果を上げるかをグループで討議し、発表する。
3回目	学園祭を通して企画力、協調性を養い、地域貢献ができる。
4回目	学園祭を通して企画力、協調性を養い、地域貢献ができる。
5回目	学園祭を通して企画力、協調性を養い、地域貢献ができる。
6回目	学園祭を通して企画力、協調性を養い、地域貢献ができる。
7回目	学園祭を通して企画力、協調性を養い、地域貢献ができる。
8回目	スポーツ大会を通し、企画力、協調性、積極的に行動することができる。
9回目	スポーツ大会を通し、企画力、協調性、積極的に行動することができる。
10回目	we are ＩＫＥＮを通して、研究発表の形式や運営について学び、協調性を身につける。
11回目	we are ＩＫＥＮを通して、研究発表の形式や運営について学び、協調性を身につける。
12回目	we are ＩＫＥＮを通して、研究発表の形式や運営について学び、協調性を身につける。
13回目	we are ＩＫＥＮを通して、研究発表の形式や運営について学び、協調性を身につける。
14回目	we are ＩＫＥＮを通して、研究発表の形式や運営について学び、協調性を身につける。
15回目	１年を振り返り、次年度学年で何をするべきか、自分で考える。
準備学習時間 外学習	少ない授業回数で行事参加への準備をします。その為、積極的な時間外学習を行ってください。
評価方法	1．出　席（60%） 2．提出物（10%） 3．レポート（20%） 4．授業態度（10%） 評価方法はＧＰＡ制度となります １００～９０点　Ｓ ８９～８０点　Ａ ７９～７０点　Ｂ ６９～６０点　Ｃ ５９点以下　Ｆ不合格 単位認定条件 ①「学園祭」「スポーツ大会」「we are医健」に必ず出席すること ②学外見学実習「病院見学」「ＢＬＳ実習」等に必ず出席すること ※欠席した場合は、補講対象となります
受講生への メッセージ	前後期続きの科目となります。臨床実習中で時間割が変更となる場合がありますので、時間割変更に注意してください。学生の間に身に着けたい教養について、考えていきます。演習を中心に行うため、積極的に参加し、能動的な学びができるよう、心がけてください。外部施設等の見学実習では、体調管理に気を付け、少ない機会を無駄にしないように心掛けてください。（欠席等で時間が不足の場合補講は休日や長期休暇を利用します。）

【使用教科書・教材・参考書】
授業内で配布されるプリント、レポートを使用します。